

令和4年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和3年度)

令和4年6月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和4年6月21日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和3年度自己評価報告書」について、自己点検評価の各項目に対する評価とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。

評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

委員名	摘要	区分
大塚 浩昭氏	岐阜県高等学校農林校長会 会長	教育関係者
細川 正孝氏	加子母森林組合 代表理事組合長	関連業界（林業）
美谷添 里恵子氏	白鳥林工協業組合 代表理事	関連業界（林産業）
石橋 明世氏	ぎふの木に住まい協議会事務局長	関連業界（建築）
小川 美鈴氏	岐阜県林政部林政課長	行政機関
伊藤 栄一氏	NPO 森のなりわい研究所代表	学識経験者
金山 純子氏	エンジニア科保護者	在校生の保護者
吉田 理恵氏	2017年度クリエイター科卒業	卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値

評価項目	評価値	評価結果
1. 教育理念・目標	4	適切
2. 学校運営	4	適切
3. 教育活動	4	適切
4. 学習成果	3	適切
5. 学生支援	4	適切
6. 教育環境	3	適切
7. 学生の受入れ募集	4	適切
8. 法令等の遵守	4	適切
9. 社会貢献・地域貢献	4	適切
10. 国際交流	4	適切

※評価値：適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者評価委員会では、10つの評価項目全てについて「適切」であると評価を受け、総合評価として「適切」であると評価をいただきました。

しかしながら、評価の仕方が分かりにくい、課題の掘り起こしや問題点や改善した結果についての記入が足りないとの意見がありましたので、今後は具体的に課題についての問題点や改善結果について記入していきます。

今回の評価でいただいたご提言やご意見等を踏まえ、定量評価ができる項目は、数値目標を示して評価をしていきます。また、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上、対応していきます。

令和4年度学校関係者評価委員会における委員の意見
それに対する本校の対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目標	4 (適切)	・アカデミーの意義をより広く伝えていただきたい。	・県内向けには高校への訪問や施設へのパンフレット設置に取り組んでいる。県外向けにはHPやSNSを活用しているが、さらに充実していく。
(2) 学校運営	4 (適切)	<p>・定員20人に対し、最大で35人ぐらい受験しているようだが、素晴らしい理念があり、公立で学費も安く、補助制度もあるため、もう少し受験者がいてもいいのではないか。</p> <p>・もっと告知すれば需要はあるのではないか。教員18人に対し学生が80人と手厚いため、もう少し定員を増やしてもいいのではないか。学生が増えれば、県の林業・林産業への就業も増えることになる。</p> <p>・「対外的なコンプライアンス」という項目がある。「コンプライアンス」とは、通常、組織内での法令順守を指すものだが、本学では「対外的なコンプライアンス」として具体的にどんなことに取り組んでいるのか。</p>	<p>・ここ2年こそ受験者数は多いが、開学以降の20年間を見ると、クリエイター科では半分の年で定員に達していないなど、苦しい時期が続いた。このため、引き続き、県内向けには高校への訪問、県外向けにはHPやSNSを活用し、本学の新鮮な情報を発信し、受験者数の確保に努めていく。</p> <p>・現在、県内の林業技術者は1,000人弱で、木材業界も人手不足となっている。一方、高校生数は今後10年間で3,000人程度減ると言われている。そうした条件の下で林業・林産業の担い手をどう養成・確保していくか、が課題であり、本学の定員についても、そうした観点から本庁と相談していく。</p> <p>・多くの企業や団体が本学の教員の知見を求めているが、その求めに対しては、専修教育という本来の職務に影響を及ぼさないか、知見の提供に公平を欠くことがないか、公務員として法</p>

			<p>令を遵守できるか、などを確認し、対外的にも説明できるよう対応している。職務専念義務免除や営利企業等従事制限に関する手続きについても、その都度吟味し、本庁に進達している。</p>
(3) 教育活動	4 (適切)	<p>・アカデミーを卒業して木育の業界で仕事をしていくのはすごく厳しく、理解が進んでおらず、創造していくものだと感じているが、ぎふ木育推進員という立場で仕事が広がり、他県から招かれて、岐阜県の先進的で進歩的な仕組みを取り入れて進めたいと言われており、それが長く続いてさらに発展していくようにあってほしいと願っている。ぎふ木育推進員として活動しているが、その役割を担う後継者の育成は急務である。</p> <p>・様々な社会的ニーズにこの森林文化アカデミーは、どう応えるべきか、森や木に関わる役割を全てここで担えるわけではないので、アカデミーでやるべきことは何なのか、例えば、木育指導員をアカデミーで養成すべきなのか、違う形でやるのか検討しなければならないし、社会的なニーズを取り組む一方、そのカリキュラムや理念を細部にどう反映していくかが大切なことだが、これら評価していく上での評価のあり方が必要である。全体論になるが、今回の評価資料をみると、課題の掘り起こしが十分でないため評価ができない。自己評価をどう評価していくかと、資料の提示の仕方に工夫をしないとほとんど④「適切」になる。数値目標が達成していない項目で③「ほぼ適切」になっており、数値に表れないところをどう評価していけばいいのかわかりにくく、評価の仕方と</p>	<p>・ぎふ木育として10年以上経ち、木遊館やモリノスを整備しながら進めており、木遊館を拠点として県内に100余か所に木育広場を整備している。木遊館のサテライトの検討をし始めており、木育の普及、指導員が活躍する場所はこれから増えていく。指導者の需要と養成するニーズとバランスをとりながら進めていく必要があるので、本課と相談しながら、今後どうしていくのか検討していく。</p> <p>・評価の仕方として定量的に行える項目と定性的にしか行えない項目があり、数字に反映できるものは数字を盛り込んだが、具体的に社会的ニーズについての考察や検討の記述や分析までは反映されていないため、少し分かりにくいところがある。今後は具体的に課題についての問題点や改善結果について記入し、評価をしていただく上で分かりやすくしていく。</p>

		<p>いうのを少し工夫する必要がある。総論的な話になってしまったが、ご検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村や企業からの受託研究の実績は？ ・インターンシップを受け入れているが、受け入れる側の視点で上げると「来て終わり」という状態になっている。受け入れてはみたものの、学生が本当に目的を達成できたのかな、この学生にはもう少し内容を絞ったほうが良かったかな、この学生には別の内容の方が良かったかな、と思うことが結構ある。学生がインターンシップで得られたことを評価する仕組みを作るなど、改善できるといい。アカデミーには、インターンシップをただ送り込むだけでなく、事前と事後が大事という視点を持って欲しい。 ・人に教えることにより学ぶことが多いため、インターンシップ等で小中学校に出前講座等があるといいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は8件。具体例として、市町村からは県産材でのおもちゃ製作に関する研究、企業からは木造住宅用の制震装置のデータ解析に関する研究の依頼などがあった。 ・現在、インターンシップについては、学生から報告書は提出させているが、企業へのアンケートは行っていない。今後、企業からご意見を聞く仕組みを作るなどし、より良いインターンシップにしていく。 ・一般の人や小中学生に対する出前講座は、「林業インタープリテーション」や「木育総合演習」などで実施しており、引き続き取り組んでいく。
(4) 学習成果	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジニア科の就職率は県内8割だが、林業関係企業に就職しているのは何人ぐらいか。 ・クリエイター科は就活の動きが遅く、乗り遅れている子がいる。4年制の大学生は3年生の夏から、本学に当てはめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年度エンジニア科の林業関係企業への就職者は14名。 ・クリエイター科の学生には、自身の強い思いや学びとのバランスもあり、早々と就活に入っ

		<p>と1年生の夏から動いているのが実際なので、乗り遅れている。チャンスを奪われている可能性もあるので、早めの就活について指導してあげて欲しい。</p> <p>・クリエイター科については、課題研究と目指す仕事がマッチしていると上手く就活に入って行けると思う。一方で、課題研究が本格的になるのは2年次から。このため、1年生から課題研究の内容と目指す仕事についてかなり意識させるとより早く就活に入っていけるのではないか。</p> <p>・クリエイター科は年齢幅が広く、就職ではなく、NPOやボランティアなど、何らかの形での社会貢献を考えている学生もいる。クリエイター科の就職率は78%とのことだが、何らかの社会貢献をしている、という観点に立てば、100%近い数字になるのではないか。そのような、別の評価指標があると更に良いのではないか。</p> <p>自分も仕事を辞めて子育てしながら入学をした立場で1年生の時にNPOを立ち上げて、現在も同じ活動が続いているが、就職という意味では、ちょっと違うと思うと、評価の仕方を考えていただくといいと思った。やはり就職することを目的に通われていない学生が私の同級生の中には、多かった。</p>	<p>て行けない傾向もあるが、企業研究には早めに着手するよう勧めていく。</p> <p>・学生の就職意識や職業観の形成について、就活が早くなってきており、2年生の忙しくなる前の1年生のうちに企業研究をし、それが課題研究につながっていけるよう指導していく。</p> <p>・早期退職してクリエイター科に受験する学生には、必ず面接のときに、セカンドライフをするにあたって、どう社会に還元するか、もしくはなりわいにするかと聞いている。ここで明確な目標があるかないかが、年齢が高くても、うちの学校に入っただく、一つの重要なポイントとなっている。現在、起業された方も就職者にカウントしているが、今後は、社会貢献も含め、多様な活躍の形態を反映できるよう検討していく。</p>
(5) 学生支援	4 (適切)	<p>・女性の学生が一定数いるのに、男性の教員ばかりなので、要望として、女性の先生の採用をお願いしたい。</p>	<p>・女性優遇を明記し募集している例が独立行政法人にあることは承知しているが、現時点では県の方針もあり、フラットに募集している。もとより、課題として認識しており、女性の応募を期待しているところである。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の研修は、高校では見られない機械を生徒が実際に操作して体験できるため、引き続きお願いしたい。 ・アカデミーで行っているスマート林業の研修等についても生徒はもちろん教員に対しても勉強する機会を与えていただけるとありがたい。 ・学生の心の問題にどのように対応しているか。 ・森林環境譲与税を利用して、地元に戻ってくる人、またはIターンする人に対するの支援を各市町村にお願いできると、アカデミーの学生が利用でき、森林技術者の育成もできる。森林環境譲与税が学生支援に使えることを市町村にPRすれば学生支援がもっと増えるのではないか。 また、アカデミーと県下市町村との間で、当該市町村職員や市町村内の森林・林業・木材業の企業にアカデミーの学生が就職した時の支援の協定を締結したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の操作体験は学生にとってすごく印象に残っているようで、高卒受験生の面接や作文にそのことを書いている学生が多い。アカデミーとしては、その体験が入学を希望する動機の一つになればいいので、積極的に活用していただきたい。 ・農林系高校にはスマート林業の研修や操作の案内を出しているの、積極的に参加していただきたい。 ・専門の心理カウンセラーによる月1回の相談体制をとっている。 ・連携市町村以外にも学生支援をしていただいている市町はあるが、県内市町村に対して、森林環境譲与税を利用してアカデミーの学生に対する支援をしていただけるように働きかけていきたい。 県下市町村との学生の就職支援の協定は、今後検討していきたい。
(6) 教育環境	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事ができるところが学内にないのでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売店などは学生の人数が少なく、採算性が悪いため設置は考えていない。食堂もウッドテラスなど、自由に食事をとれる場所があるため、設置する予定はない。

		<ul style="list-style-type: none"> ・寒い。勉強に集中できるような環境にしていきたい。 ・自力建設で、リフォームとか、断熱改修もしているのか。本当、寒い。どこかだけでも断熱した場所があればいいので、自力建設で先生の監修のもと、ものすごい断熱効果がある部屋を作ってもらえればと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・要望になるが、県内に設置されている森林教育機関として、岐阜大学の演習林との連携とか活用を考えていただくととてもありがたいし、ここの演習林ではみられない様々な植物が勉強できるので、ご検討いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミーと企業でインターンシップの協定をしたらどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミーの校舎は築 20 年以上が経ち、改修が必要な場所が増えている。寒さ対策として、壁の間に断熱材を入れたり、エアコンを更新したりしているが、確かに寒く、日々改修している。学生の要望を聞きながら、快適な学生生活が送れるように改修をしていく。 <p>平成 30 年に林業機械学習棟をアカデミー創設以来、自力建設を除いて初めて増設した。先生が研究し尽くして作った建物なので、ものすごく断熱がいい。さらに令和元年に建設したモリノスも、3 重ガラスにしてあり、非常に気密性が高く、暖房も床下から回しており足元から暖かく、非常に快適である。これからはエネルギーロスが少ない建物が主流になってくる。今年の自力建設は、7 期生の建物を改修するので、どうリノベしていったらいいか学んでいく中で、断熱等の授業を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ、利用させていただきたい。どのような授業に岐阜大学の演習林が利用できるか先生と検討をしたうえで、利用方法について相談させていただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは学生が自ら希望する企業を探して実施しており、毎年企業先が異なるため、一概に協定を結ぶことは困難であるが、学
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<p>4 (適切)</p>	<p>・アカデミーの入学希望者からアカデミーのHPに載っていた私に直接問い合わせがあり、「アカデミーはどうですか」と聞かれ、「いいですよ」とご紹介したが、興味のあるインタビューとかをSNSやYoutubeにあげると、これからの時代、SNS等を上手に活用して、意外といろいろな方が見ていると実感したので、ぜひ、がんばっていただきたい。</p> <p>・高校生の進路相談会にここの学校がない！一覧に掲載されていない。親も子もこの学校の存在を知らない。いい学校なので、選択肢の一つにあってもいい。定員を増やしたら、岐阜県の林業とか木造に興味が増える、県内でまた、就職してくれたらそんないいことはない。実際にあったので、伝えておく。行けないと思っているのか？親とすると公立の学校で学費がこんなに安くて、皆、行きたがるのではないかな？と思う。</p> <p>・この学校を知ったのは、友達に誘われて1日だけ森のようちえんに来たことがあり、それですごくいいと思った。子供は普通科だったが、家が建築をやっており、山と一緒にいたりして、ここに入ることができた。でも、多分、普通科だと選択肢に入るかな？と思う。こんな身近にあるのに知らないと思う。</p> <p>・高校の先生が、大学の教育学部や専門学部でその勉強しかしておらず、理科の先生が、環境や森林に興味があるくらいで、高校の進路指導の先生が、全く意識がなければ、高校生</p>	<p>生の希望等を踏まえて検討していく。</p> <p>・先生の中にSNSに長けた方がおり、今年度、SNSでキーワードを検索する人にアカデミーのオープンキャンパスの案内が出るWEB広告を構築した。アカデミーを最初に知ってもらおうということで、どんなに努力しても足りないし、常にやっていかなければならないので、継続して努力していきたい。</p> <p>・本学のPR不足である。受験資格がないと思っているかもしれないが、最近、普通科や工業高校からもご応募いただいているので、学校の先生からご紹介いただけるように、授業料も含めてもっとPRしていく。</p> <p>・面接のときに、小学生の時のキャンプや地域での林業家の森林教室が最初の動機である学生が結構いるので、そういう原体験を作る地道な努力が必要だと思う。そういう意味では、木遊館やモリノス、木育広場に来る子供から親世代にかけてのPRを積極的に行うとともに、小学校等での出前講座などを通じてアカデミーをPRしていく。</p> <p>一方、いろいろな機会をとらえてPRしてい</p>
---------------------	---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>に情報を与えられない。農業高校も中学生でなくて小学生に体験してもらい、しっかりPRして、中学で選択肢として農業高校に入ってきてほしいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ木育推進員として、大学の保育士を目指す学生の木育教室に派遣されて行くが、保育士が仕事をいったんやめて森林教育を学んだりする学生が多いので、そういう人たちの目に触れれば間口が広がるのではないかと思う。 ・小学生などへの刷り込みなど、認知を高めるための手法はまだまだ存在するので、いろいろな方法で認知を高めていただきたい。 	<p>るが、親御さんにどう届けるか、高校の先生にどうご理解いただけるかは、引き続き、全部の高校をまわるので、多くの情報を提供していきたい。</p>
(8) 法令等の遵守	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の在り方に関し、単に「適切でした」というだけでなく、少し掘り込んで欲しい。自己評価である以上、自分たちが何かしら課題を掘り起こし、その課題を改善した、というところがあるはず。自己評価をしてみて、どの点が課題と判ったので、そこをどう解決したか、ということを書くといい。現在の自己評価の手法の見直しを検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、課題の掘り起こし、その改善点等を具体的に記載することとする。
(9) 社会貢献・地域貢献	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書中に「提供する」、「支援する」、「講座を開催する」など、主謀的な立場で書かれているが多い。地域がアカデミーから「提供いただく」のではなく、一緒に課題を解決していく、という協働の考え方で取り組んでいただきたい。押し付けではなく、地域との連携、というスタンスを、もう少し盛り込んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村等との連携では、協働で課題を解決していくような事例もあるし、加えて、学生が市町村等に企業や地元の方を紹介いただいたり、授業のフィールドを提供いただいたり、といった要素もあるので、今後、判りやすく書き込むこととする。
(10) 国際交流	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流はコロナ禍で難しいと思うが、他県の林業大学との交流はあるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中ではあるが、長野林大と京都林大とは3林大として協定を締結し、授業や伐木

その他		<p>・昨年度の評価報告書の要望や指摘に対する回答で「検討しています」、「検討します」という項目があったが、検討した結果どうなったか、をフィードバックしていただく必要がある。なお、学校評価は年度で区切られているが、年度をまたいで完成させていく要望や指摘もあるので、その取り組み状況もフィードバックしていただく必要がある。また、今回の資料では「自己評価」を通じて取り組んだ内容が把握できない。外部評価の手法の検討が必要ではないか。</p> <p>・岐阜県の子が岐阜県に残れる大きな道筋として、市町村との連携をもっと強めていただきたい。</p>	<p>選手権などを通じた交流が来ている。</p> <p>・昨年度の回答は昨年6月に作成しており、結果がどうなったのかを反映していない。また、自己評価を通じて取り組んだ内容が把握できるよう工夫する必要もある。このため、他の学校の自己評価等も参考に、来年度に向け判り易い自己評価へと見直していく。</p> <p>・県下全部の市町村と連携協定を締結するのは、既存の授業等がある中難しいが、協定を締結しなくても連携できる活動があるので、要望があれば可能な限り実施していきたい。</p>
-----	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	委員の意見等	対応方針
専門技術者教育	特になし	
生涯教育	特になし	
産学官連携(コンソーシアム)	特になし	